



ビデオ流出と云うけれど、問題は歴代政府のうやむや外交では？

尖閣諸島沖で中国漁船が巡視船にぶつかったビデオの流出が問題になっている。既に船長は「処分保留」で中国に送還され、事実上刑事事件の処理は終了。そのビデオを秘密とし、一部の人だけが見て「私の判断に従え」と云うのは民主的ではない。広く国民に公開すべきだ。海保内で秘密にして居なかったのは当然だ。

そもそもこの問題は、尖閣諸島の領有権問題を歴代日本政府がいい加減に扱っていたから起こったのだ。日本の75年間の実行支配中、何ら異議を挟まなかったのに、1970年頃石油がありそうとなって突然「中国領」だとする法律を

中国が決めた。その時、日本政府はすぐに日本の領有権の正当性を示し、徹底的に中国と議論を交わすべきであった。日本の領有権の正当性を認めさせれば、中国漁船が尖閣諸島の領海に入ることも無かったろう。入った漁船が巡視船に体当たりしたなら、その漁船を拿捕して関係者を起訴しても中国は文句を云えない。ビデオも当然公開され、流出問題も発生しなかった。

問題は領有権の根拠を論立てをして主張することのなかった「歴代政府のうやむや」外交にあると思いますが、皆さんはどう思われますか？



館山の造船所にて

職場美術協議会の写生会で房総の館山に行きました。造船所に貨物船が引き上げられ、修理中でした。土曜日でしたが、修理の工程を急ぐのか、多くの労働者が働いていました。

船の先端の喫水線下の赤く塗られた部分の丸いふくらみは「バルバスバウ」と云います。そのふくらみが起こす波と、船首の喫水線の辺りで起こす波が打ち消しあつて、船の抵抗を減らすものです。高校生の頃でしたか、科学雑誌で読んだ記憶があります。

昭和二、三十年代、南氷洋で捕鯨が盛んだった頃、キャッチャーボートの修理の為に、この造船所「極洋船舶工業株式会社」は設立されたと云うことです。